

## BL32B 2

### 創薬産業ビームライン (蛋白質構造解析コンソーシアム)

#### 1. はじめに

創薬産業ビームラインBL32B2（創薬産業BL）は、日本製薬工業協会加盟22社（現20社）からなる蛋白質構造解析コンソーシアム（蛋白コンソ）によって設立され、2002年9月から蛋白コンソ加盟企業による本格的な利用が開始された。

#### 2. 報告事項（2006年4月～2007年3月）

2007年4月に予定している第2期コンソーシアムへの移行に向けて、組織並びに運用体制について検討を行った。2006年10月からはビームラインの維持・管理と事務局業務を外部委託した。

2007年3月のJASRIによる創薬産業BL中間評価では、「装置の構成と性能」、「施設の運用及び利用体制」及び「研究課題、内容、成果」のすべての点で高い評価を受けた。

2006B期から理化学研究所で開発されたタンパク結晶交換用ロボットの運用を行っている。

#### 2-1 2006年4月～9月

- 4月 実験責任者講習会開催  
SPring-8一般公開参加
- 5月 第11回総会（定期）  
富山大学NMR施設見学
- 8月 産総研・JBICシンポジウム
- 9月 SPring-8産業利用報告会

#### 2-2 2006年10月～2007年3月

- 11月 SPring-8シンポジウム  
第12回総会（定期）
- 2月 第13回総会（臨時）
- 3月 創薬産業BL中間評価

#### 3. 創薬産業BLの利用状況

2002年B期から2006年B期までの課題別利用状況を表1にまとめた。蛋白コンソ加盟20社が実際に利用したシフトに占める成果専有課題の比率が年々増加し、2006年度はほぼ100%に達していた。また、4年半の利用実績のまとめを図1に示した。

#### 4. 蛋白コンソの成果公表

本年度は加盟会社から1報の論文発表があった。

#### 参考文献

- [1] Crystal structure of human ERK2 complexed with a pyrazolo[3,4-c]pyridazine derivative  
Takayoshi Kinoshita, Masaichi Warizaya, Makoto Ohori, Kentaro Sato, Masahiro Neya and Takashi Fujii.  
Bio. Med. Chem. Lett. 16 (2006) 55-58.

蛋白質構造解析コンソーシアム 鈴木 健司

表1 2002B～2006B期の課題別利用状況

	シフト数（比率%）									
	2002B	2003A	2003B	2004A	2004B	2005A	2005B	2006A	2006B	
成果専有課題	102 (67)	122 (75)	118 (80)	112 (79)	100 (81)	109 (90)	84 (90)	131 (98)	80 (100)	
成果非専有課題	51 (23)	41 (25)	29 (20)	30 (21)	23 (19)	12 (10)	9 (10)	3 (2)	0 (0)	
合計	153	163	147	142	123	121	93	134	80	

	シフト数（比率%）
2002B～2006B	
成果専有課題	958 (41)
成果非専有課題	198 (8)
B L 調 整 枠	276 (12)
緊 急 課 題 枠	154 (7)
空	759 (32)
合計	2345

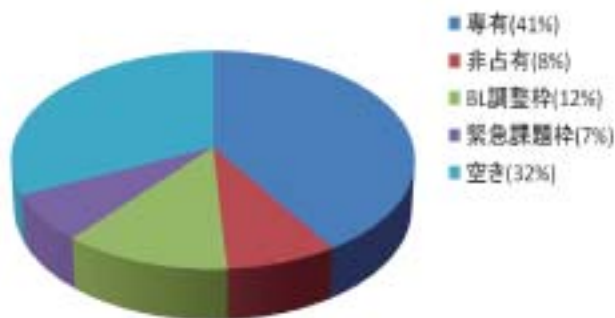


図1 2002B～2006B期の利用実績